

人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業  
拠点機関におけるデータ共有基盤の構築・強化委託業務 委託業務概要

業務実施研究機関

国立大学法人東京大学

業務実施研究所等

史料編纂所

業務主任者氏名・役職

保谷 徹・前近代日本史情報国際センター長

委託業務実施期間

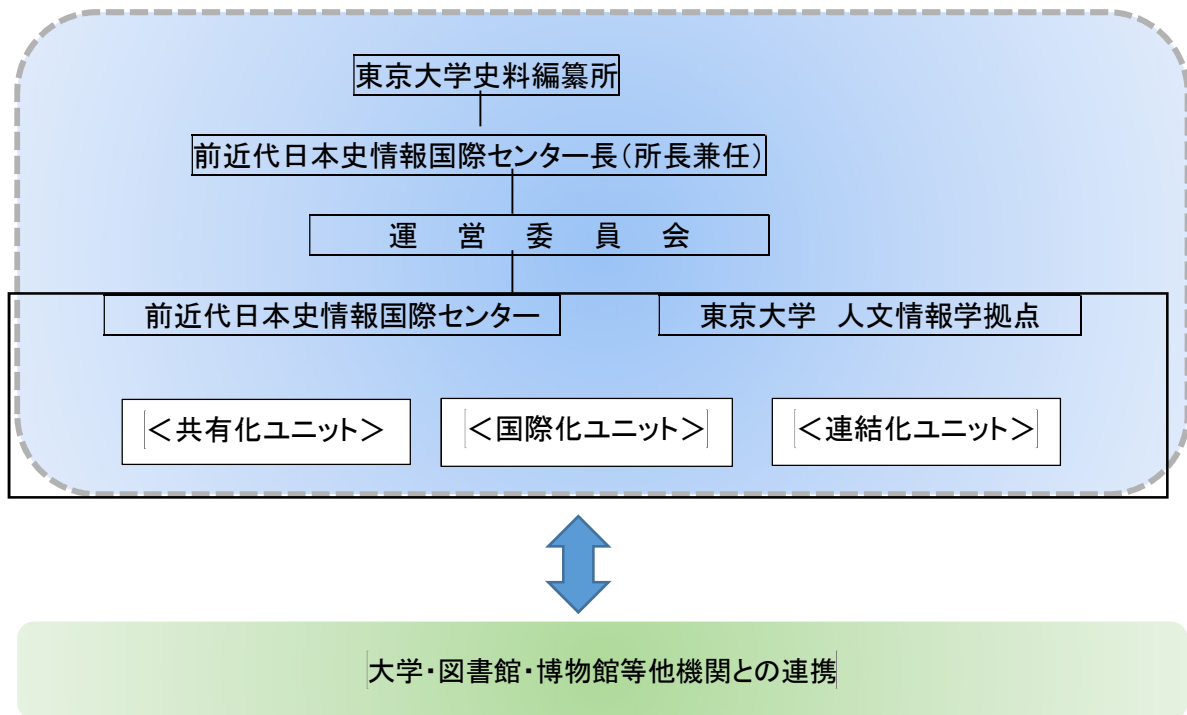
令和元（2019）年10月1日～令和3（2021）年3月31日

業務実施体制図、説明文（概要）

1. 業務実施体制

業務項目	担当責任者（職名、エフォート率%）
①データアーカイブ機能の強化 （共有化ユニット） OAI参照モデルに基づく長期保存・長期利用のためのシステム環境整備/データ利用条件の整備/データ分析環境の提供	山田 太造（東京大学史料編纂所・助教、20%）
②海外発信・連携機能の強化 （国際化ユニット） 海外発信の強化・海外史料保存機関との連携強化/ データベース英訳事業の推進・国際交流	保谷 徹（東京大学史料編纂所・教授・前近代日本史情報国際センター長、30%）
③データ間の連携を可能にする環境の整備（連結化ユニット） API（Application Programming Interface）の整備	大向 一輝（東京大学人文社会系研究科・准教授、20%）

業務実施体制図



東京大学史料編纂所の歴史情報研究部門である前近代日本史情報国際センター（センター長は研究所長）が業務実施の中核を担う。同センターは、研究所の研究部門のみならず、図書部・技術部・事務部を統括して業務実施にあたる。この際、人文学全般への拡張性の検討を鑑み、東京大学人文社会系研究科人文情報学拠点と連携し、拠点運営委員会を設けて、この下に〈共有化ユニット〉〈国際化ユニット〉〈連結化ユニット〉を置いて拠点の業務遂行にあたる。

配分（予定）額

（単位：千円）

令和元（2019）年度	令和2（2020）年度
19,500 円	32,500 円

※令和2（2020）年度については予定額

業務の目的・意義、拠点機関としての役割

人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業は、人文学・社会科学研究に係るデータを分野や国を超えて共有・利活用する総合的なシステムを構築することを目的としていることから、東京大学史料編纂所は、日本学術振興会と一体となって本目的の達成に向けて取り組む。東京大学史料編纂所は、150年に及ぶ史料の調査・収集、研究と基幹史料集の編纂・出版の蓄積をもとに、日本史史料の研究資源化に関する共同利用・共同研究拠点に認定されている。国内・海外に所在する史料の調査・研究や蓄積した史料情報・研究成果の研究資源化に組織的に取り組み、日本史学を中心とした人文学データの共有基盤を整備して、これを長期的に利用可能にするためのデジタルアーカイブ機能の強化を本業務の目的・意義とする。国内外へのデータの公

開・発信と海外機関との連携強化、データベース英訳事業等に取り組み、大学や図書館・博物館等に所蔵されている史資料のデータ収集と共有化を進めて、人文学分野におけるデータインフラ構築の拠点としての役割を担う。

#### 業務計画の概要

本事業では、日本史学や仏教学を中心とした人文学データの共有基盤を構築し、OAIS参照モデルに基づくシステム環境整備、利用条件の整備、データ利用条件の整備、データ分析環境の提供、データ間の連携を可能にする環境整備のためのAPI整備に取り組むことで、国内外の人文学研究者や図書館・博物館・文書館を含む人文学に関係する研究機関などで長期的に利用可能にするためのデジタルアーカイブ強化について取り組む。